令和2年度事業報告書

BUSINESS REPORT

FOREST
Bless to you ...



このパンフレットは、FORESTが運営する障がい者就労支援事業所「branch for pro」が制作しました。

CONCEPT



活動指針

-MISSION- 使命

現在（いま）を生きる不遇な環境で育つ子どもたちすべてが、輝ける道を創り、循環支援の輪を生み出す

-VISON- ビジョン

・どんな子どもたちにも平等に夢を
・どんな子どもたちにも未来への希望を
・どんな子どもたちにも無限の可能性を
・どんな未来の子どもたちにも繋がる循環支援の輪を

-CORE VALUE- 基本理念

・子どもたちの可能性を大切にします
・人との繋がり、縁、想いを大切にし、お互いを尊重します
・自らの言動、行動に対し、偽りなく誠実であり続けます
・最善の方法を常に探求します

事業報告書一覧

TABLE OF CONTENTS

目次

02. 活動指針
04. 団体概要
05. 2020年度総括
07. 国内事業
09. 障がい者自立支援推進プロジェクト
16. 海外事業



OVERVIEW

団体概要

FOREST
Bless to you ...

世界には、さまざまな理由から「学ぶことを許されない」「明るい未来を描けない」「選ぶ権利がない」など、可能性を制限されている子どもたちがたくさんいます。

Forest（フォレスト）は、子どもたちが本来持っている権利や可能性が、産まれ育つ環境、境遇によって制限されてしまうことがないよう、子どもたちに寄り添った支援を進めて行く特定非営利活動法人です。また、常に活動を見直し、経費を削減することで、より多くの支援を現地に届けます。

社名の由来

木は自然の恵みを十分に受けることで、幾本もの枝を広げやがて大樹へと生長していきます。Forest は、子どもたちの成長を木々に例え、恵まれない境遇にいる子どもたちが、多くのことを吸収できるよう、そして、より多くの可能性の枝を広げられるようにという願いを込めて用いました。

ロゴの意味

白で描かれた木は子どもの木をイメージしています。そして、子どもの木の周りを彩るそれぞれの色は子どもたちの個性や可能性が広がって行く事を表しています。

団体所在地

本部：〒060-0061
北海道札幌市中央区南 1 条西 7 丁目 12-6

支部：〒8150-042
福岡県福岡市南区若久 6-24-8

T E L 011-272-7716
F A X 011-272-7715

設立日 2013 年 12 月 3 日
法人設立日 2014 年 4 月 8 日

代表理事　小野塚　舞

E - MAIL　info@forest-japan.org
WEB　https://forest-japan.org/

2020年度総括

2020 年度も沢山の方からの応援、ご寄付、ご縁を頂きありがとうございました。

今年 2020 年は日本のみならず世界中が新型コロナウイルスの感染拡大という未曽有の事態に陥り、非常に大きな変化があった 1 年となりました。

全体としては 1 月下旬、カンボジアからの帰国後すぐに感染症対策への取り組みが急務となり、カンボジアへは常備薬等の必要物資確保のための追加支援を実施いたしました。

また日本でも、マスクや消毒液の確保等をすぐに開始し、就労継続支援では在宅支援の対応や利用者の感染恐怖に対するメンタルケア等、初めて取り組むことが多い一年となりました。

未知なるものへの対応にどれが正解なのかわかならいといった不安もありましたが、一つ一つの状況や課題と向き合いながら情報を集め、意見交換を行い、今後どのようにウイルスと向き合って生活していくべきかということを、子供たち、利用者、スタッフの皆で模索しながら進めることが出来たのではないかと思います。

海外事業のチェイホームでは子どもたちの成長につれ、自分の将来と向き合う時期に来た子どもたちもおり、それぞれが考えて出した将来の選択もこの一年でありました。

日本語学校へ進学することが決まった子もおり、沢山の日本の方たちからの支援を受け日本を身近に感じ「日本語を学びたい」と思ってくれたことに、この支援プロジェクトの意義を改めて感じることが出来ました。

しかし、今年度はこのコロナ禍の影響により、これまでご支援を頂いていた方たちも厳しい状況を強いられており、支援してくださる方が減少したのも事実でありますが、子どもたちの未来を最大限守っていくため、自分たちでも「チカラ」を付けていく必要があり、そして、これまで応援してくださった方たちとこれからも良い関係でいられるように努力していきたいと思います。

国内事業の就労支援では、感染対策を含め事業所内の改装や新たな管理体制構築のための取り組みを実施いたしました。

これまでは、それぞれ業種ごとに部屋が別れていましたが、改装を行ったことで一体感と解放感が生まれ、事業所内の雰囲気もまた一歩「オフィス」に近づくことでき、これまでよりもより一般就労に近い雰囲気で就労することが可能となりました。

また、積極的に資格取得やスキルアップを目指し自己学習に取り組んでくれている方もいるため、全体的に良い影響が生まれてきています。中でも昨年から進めていた国家資格 Web デザイン技能検定の長期講習では、全体のスキルアップの底上げができ、受験希望者 3 名全員が合格するという、本人にとっても事業所にとっても実りあるものとなりました。

これからもスタッフ、利用者そして事業所全体が現状に満足せず、それぞれが高めあい、向上することのできる環境を目指し進めて行きます。

そして、もう 1 つの国内事業であるチャリティイベントや物品支援等の活動については、残念ながら今年度はコロナの影響により殆どの活動を見送る形となりました。各関係機関の方とも子どもたちの成長のために何かできることはないかと色々な案を出してはみましたが、それによる影響が全く予測できない状況であるため、協議の末に断念いたしました。

2021 年もまだまだコロナの影響が続くと予想されますが、変化を恐れず、一人一人に寄り添った支援を進められるよう、私たちに出来ることを続けて参ります。

代表理事　小野塚　舞

国内事業のご報告

DOMESTIC BUSINESS

国内事業

ONE PIECE FOR PEACE

CHARITY-SPORTS

社会教育・健全育成の推進プロジェクト

物品支援

障がい者自立支援推進プロジェクト

branch for pro・step・seed



ONE PIECE FOR PEACE

今年度も新たにご協力頂けた企業さまが増え30,050ピースを集めることが出来ました。また2021年1月からは就労継続支援で全ての作業を行っており、企業さまから就労支援へ、そして就労支援から児童支援へと繋がる新たな循環支援の輪が生まれています。



ONE PIECE FOR PEACE
この名刺は児童支援に繋がっています。
Support The NPO Forest

CHARITY - SPORTS

「楽しい・新しい出会い」を支援に繋ぐ



物品支援

社会教育・健全育成の推進プロジェクト

子供たちと感動の共有と心に残る思い出を

今年度は毎年続けてきたこれまでの支援活動がコロナウイルス感染拡大の影響により、中止を余儀なくされました。毎年この活動を楽しみにしている子どもたちのために、せめて何か出来ることはないかとギリギリまで模索しましたが、最終的には子どもたちの健康を第一に考え見送る事にしました。これからは、この時代の変化に対応した支援活動がますます重要になってくるため、この時代の変化に対応した新しい支援の形を模索しながら進めて参ります。



障がい者自立支援推進プロジェクト

障がいのある方への職業訓練・就労のサポートを通じた自立支援

PROJECT

Promotion of independence support for people with disabilities 2018~

FOREST
Bless to you ...

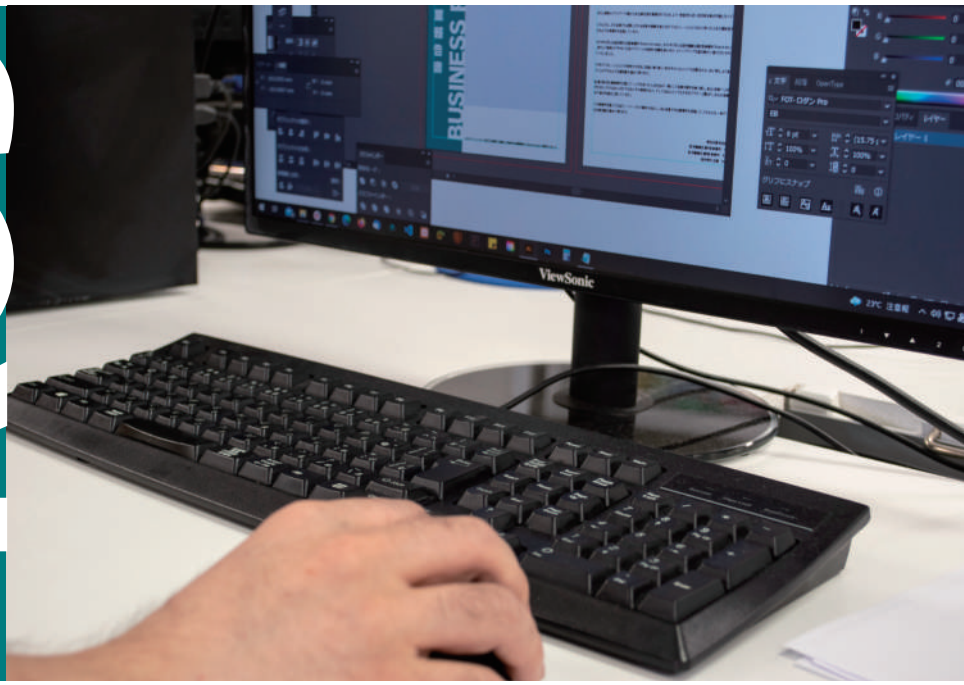
経験は「自信」になる。
知識・技術は「チカラ」になる。

▶日本の障がい者と自立

日本の身体・知的・精神障がい者の総数は約858.7万人、うち18歳以上65歳未満の在宅者は約355万人です。
(厚生労働省職業安定局平成29年度調査による)
これに含まれない、障害者手帳が発行されないものの、困りごとのある「グレーゾーン」の人を含めるとさらに多くの方がいると言われています。多くの障がい者の中には、雇用機会がない・賃金が低い・スキルを獲得するチャンスがないといった理由から、一般の労働者に比べて雇用・生活状況が厳しく、「一人の人間としての自立」とは程遠い生活を送っている人も少なくありません。

人材不足が叫ばれる日本で、このような状態が続いていることは、障がい者本人にとっても社会全体にとっても大きな損失であると言えます。

一方、本当の意味で「自立」を援助しながら、収益を上げる事業として成り立たせるのは非常に難しいのが現実でもあります。



Forestが障害者支援事業に取り組む理由と想い

私達 Forest はこれまで経済的格差によって生じる子どもたちの貧困の連鎖、生まれ育つ環境や境遇によってその可能性を奪われてしまう子どもたちの支えになるべく活動を進めて参りました。

その支援を進めていく道の中で、困難な状況に置かれている子どもたちと同様に、障がい者の方たちに対しても何か私達にできる支援がないかと思うようになり、障がい者自立支援推進事業をスタートいたしました。

そして、何らかの理由により障害を抱えてしまった人たちに対し、環境や境遇に制限されずチャンスを掴む事ができ、実りある輝いた人生を歩んでほしいとの思いから、支援の第一歩として 2018 年 1 月に就労支援事業所「Branch for pro」（当時は就労継続支援 A 型のみ）を開所いたしました。

最初に就労支援事業所の設立を検討した際に、どのような事業を行うのかについては迷いがありました。

就労継続支援には A 型と B 型があり、それぞれ特徴が異なりますが、A 型事業所を運営、維持することは非常に難しい状況に立たされており、B 型事業所と比較をしてもその数は約 3 分の 1 というデータも目にしました。

しかし、障がい者の方たちの立場を思い、自身がその状況下にいる時、何を必要とし、どうなりたいのかを考えたとき、答えは明白でした。

雇用契約を結ぶ事で得られる安心感。
状況や状態を理解してくれて、働く事のできる安心感。
収入が安定する事により得られる生活の安心感。

これらを提供できる選択肢として私たちが選んだのは「就労継続支援 A 型事業所を開所・運営すること」でした。

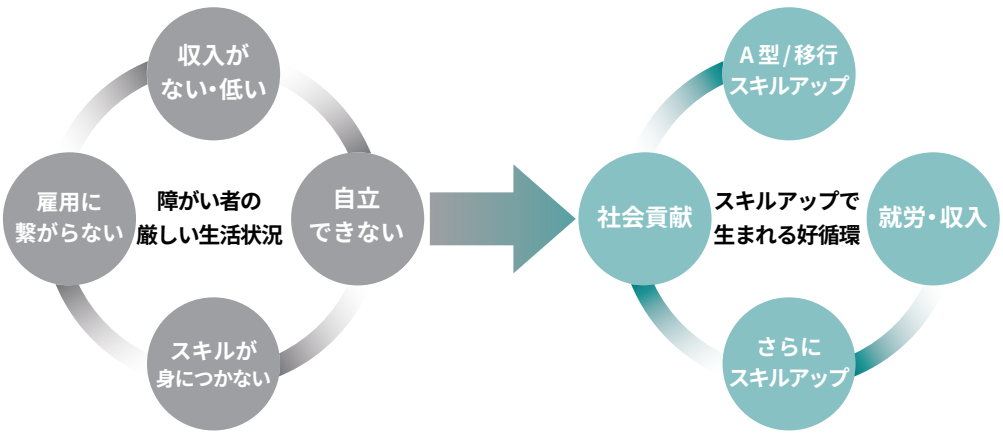
その後活動していく中で、もっと支援の対象を広げていこうということで、2018 年 7 月には就労移行支援事業所「Branch for seed」を開所、2021 年 1 月には就労継続支援 B 型「Branch for step」を開所いたしました。

就労支援事業所Branch for proとは

私達の就労支援事業所「Branch for pro」は従来の福祉事業所で一般的とされる作業内容とは異なり、どの企業にも必須な経理業務に関わる「記帳代行」の知識や作業、そして現在では経理と同じく企業にとって欠かすことのできない「Web」や「広告デザイン」に関する知識や技術の修得を目指したパソコン操作がメインとなっております。
また、実際にクライアント様からお仕事を頂き業務を行うため、より一般就労に近い形を取る事が可能となっています。

どの企業でも必要とされる技術や経験を身に付けてもらい、一人ひとりがより多くの人生の選択肢を持つ事ができるような事業所を目指しています。

障がい者の厳しい生活状況 と FOREST が目指す姿



次ページよりBranch for proの詳しい紹介と2020年度の実績をご紹介しています

Forestが運営する多機能型就労支援事業所

Branch for pro ブランチ フォー プロ

多機能型就労支援事業所
BRANCH FOR PRO

Branch for proは「就労継続支援事業所A型・B型」と「就労移行支援事業所」の部門を持つ、多機能型就労支援事業所です。同地域の同様の事業所に比べ高い専門性、技術力を特徴とし、小さな単純作業から総合的な制作まで企業様より仕事を請け負い、日々業務に取り組んでいます。



2020年8月に改装が行われ、刷新された事業所内

A型は事業所に直接雇用され、事業所が請け負った仕事に取り組んでいます。雇用期間の定めはなく、勤務時間により雇用保険等にも加入できるなど、一般の就労に近い形になっています。

B型は雇用契約を結ばない形ではありますが、利用者と相談のうえ通所スケジュールを調整しながら、実務作業の指導やスキルアップのための訓練及びサポートを行っています。

移行型では原則2年間での一般就労等を目指し就職に向けた訓練を行っています。

雇用されている障がい者やスタッフそれぞれが得意分野をもち、Webサイト制作・プログラミング（Javascriptなど）・DTP（チラシ・名刺等の作成）・経理業務に関わる記帳といった専門知識を要する業務を行っています。

クライアントの要望に応えるためにはチーム内での打ち合わせが不可欠で、技術力だけでなく、コミュニケーション力・発想力・提案力などが求められる非常に高度な業務内容です。

「サーティファイ WEBクリエイター能力認定 エキスパート」「サーティファイ Illustrator能力認定 エキスパート/Photoshop能力認定 エキスパート」「日商簿記検定2級」「マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト（MOS）Wordスペシャリスト/Excelスペシャリスト」等の資格保有者も在籍しており、実務に対応できるよう日々積極的に勉強を続けています。

また、2020年1月に本格的なオンデマンド印刷機を導入したことにより、 地域の中小企業や個人事業主様を対象にデザインから印刷製造まで含めたトータルサポートが可能になりました。

札幌圏では、このような専門的な業務が行える就労支援事業所は数少ないため、障がい者本人の自立を助けつつ、 メンバーそれぞれの得意分野を活かしあうことで事業所自体も成長していけるような、他に類のない場を目指しています。

各部門の紹介と2020年度実績

就労継続支援A型「Branch for pro」開所：2018年1月～

A型では、主にWeb・DTP制作および記帳代行の二分野で業務を行っています。
Webチームでは、受注したWebページの制作（WordPressサイトを含む）や、名刺・チラシ・パンフレット等のDTP制作を、記帳代行チームでは企業・個人事業主様の経理業務に関わる記帳代行を行っています。

Webチームより

2020年度はデータ作成のみでなく実際に制作物の製造・納品まで担うDTP業務や、
ページ数が多いWebサイトの制作など非常にやりがいのある案件の多い年度でした。

・NEVELLO バスルート入力（4月～）
・（株）プラスアルファ　事務所移転のお知らせハガキ印刷＋郵送（9月）
・一般社団法人ほっかいどう発達症応援ラボ（匠微）
　A4チラシ、ポストカード印刷、A3作家紹介パネル（10月）、匠微のお店WEBサイト（12月）
・札幌市「障がい者就業・生活相談支援事業所」（ナカポツ）パンフレット（12月）
・札幌市市政概要　Word変換作業（3月）
・学校法人桑園学園　札幌情報未来専門学校　WEBサイトおよびプロモーションビデオ（3月）



札幌情報未来専門学校 Webサイト



ほっかいどう発達症応援ラボ（匠微）A4チラシ

記帳チームより

幅広い業種からご依頼をいただき、月平均100件ほどの記帳処理を行っています。
領収書をクライアントから受け取り、分類・記帳後にファイリングし、確定申告後にお預かりしていた領収書を返却するところまでオールインワンで作業しています。
会計ソフトを用いた入力や、法人の経理に関わる処理にも取り組んでいます。

[2020年度　合格実績]

Webデザイン技能検定2級：2名
Webデザイン技能検定3級：1名

2019年10月より、A型通所者（Webチーム）を対象にWebデザイン技能検定2級（国家資格）取得に向けた長期講習が行われておりましたが、2020年度11月回の試験において、無事合格者が出ました。

[2020年度　一般就労実績]

就労継続支援A型「Branch for pro」：2名

就労先は多岐にわたっておりますが、分野としてはデスクワークが多い傾向にあります。

▶就労継続支援B型「Branch for step」開所：2021年1月～

B型は2021年1月に開所したばかりですが、既に資格の合格者も出ております。

Web・記帳代行の分野の作業や訓練を通じて専門的なスキルや就労に必要なコミュニケーションスキル、生活習慣等を身に着けてもらい、一般就労や資格試験（日商簿記やマイクロソフト・オフィス・スペシャリスト）の合格など、通所者の方の希望を叶えるべく日々サポートをしています。A型で校正・印刷を行った名刺を、B型のメンバーに検品してもらうなど、事業所内で分業も行っています。



[2020年度　合格実績]

日商簿記検定3級：1名

▶就労移行支援「Branch for seed」開所：2018年7月～

就労移行支援では、まず利用者の希望をヒアリングし、 Word、Excel、HTML等のWeb知識の基礎といったPCに関わる分野と、経理業務に関わる記帳代行分野の訓練を行っています。
B型同様資格試験の合格を目指し、勉強する方の支援も行っています。

プロジェクトの今後の展望



支援される場から、社会貢献を行う場へ

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けテレワークの実施が試みられた時期や、職場の改装が行われたりと前半期では何かと落ち着かない部分もありましたが、後半では国家資格の合格者が出たり、札幌市をクライアントとする大変意義深い依頼を受けることができたり、新たに就労継続支援B型が開所したりと手探りながらも実りの多い年度になりました。

次年度以降の展望としては、Webチームではより多様なデザインや人の目に触れる機会が多い案件を増やすことで、また記帳チームではより多業種なクライアント様を担当することで、仕事にさらなる充実感を持ってもらい、顧客満足度を高めることで再度の依頼をしていただけるような循環を生み出していきたいと考えております。

新たに開所し、順調に活動を続けている就労継続支援B型では、通所者のスキルアップを図りながら、A型との連携の精度も高めていきたいと思っています。

Forestではこれからも就労支援事業自体が社会貢献になるような仕組みを自ら生み出せるよう、取り組みを続けて参ります。

FOREST



海外事業のご報告

OVERSEAS BUSINESS

海外事業

CHEY CHILDREN' S HOME

２０２０年度活動報告





子供の成長記録

2020 年度はチェイホームに在籍する 13 人の子供と、既に卒院した 1 人に日本語学校の学習支援を続けており、現在フォレストとしては昨年と変わらず 14 人のカンボジアの子供達を応援しております。

幸いなことに子供たちは昨年と変わらず大きな病気もなく元気ですが、カンボジアも世界の例に漏れず長く続く新型コロナウィルスの影響で、様々な影響を余儀なくされております。

まずはカンボジアの新型コロナウィルスの最新の状況と、子供たちへの影響、そしてフォレストとしての対応について触れさせていただきます。

カンボジアの新型コロナウィルスの現状（2021年4月30日現在）

4月29日付のカンボジア保健省による発表によると、カンボジア国内における新型コロナウィルス感染者数は合計12,641名、死者91名です（治癒者数：4,986名）。

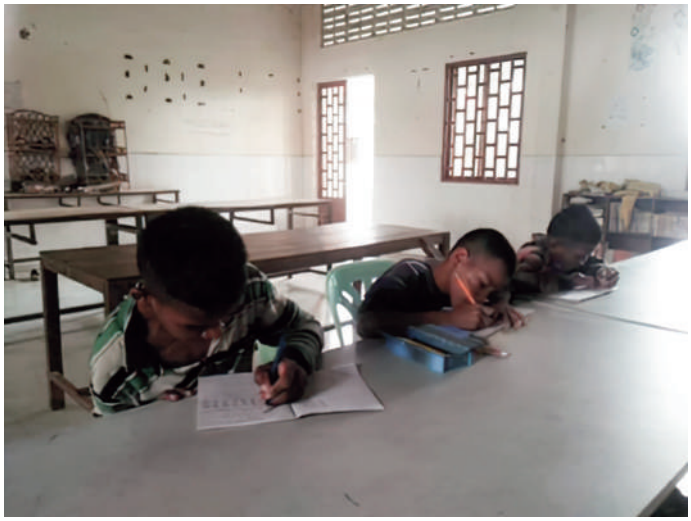
現在でも総数だけで見ると日本や周辺諸国と比べても決して多くない数字ですが、実はカンボジアでは現在進行形で新規感染者が急速に増えており、とても深刻な現状です。2021年の2月1日時点では総感染者数が500人に満たないレベルで感染を押さえ込んでいましたが、2月20日に市中感染が確認されて以降はその数を急速に伸ばし、現在では日に700人程度の新規感染者が増加、首都プノンペンやその他の複数エリアでロックダウンによる外出制限が強いられており、街は閑散とした有様です。



学校や教育についての現状

また学校でも休校が長く続いていることから、カンボジア政府はリモート学習の指示を早くから出し、その対応にあたっております。カンボジアではパソコンの普及率はそれほど高くありませんが、幸いなことにスマートフォンとＳＮＳの利用率は非常に高い為、多くの家庭ではそれらを使いリモート学習に対応している現状です。

チェイホームでも職員が持っているスマートフォン3台を駆使し、リモート学習の対応に当たっていますが、子供の数に対してデバイス数が圧倒的に足りていない為、残念ながら全員の子供に行き届くわけではありません。そこで卒業が近い子供などを優先的にリモート学習に参加させるなど、優先順位をつけて対応せざるを得ないのが現状でした。またどうしてもリモート学習の優先順位から漏れてしまいがちな小さな子供達には、大きな子供たちが先生になり、勉強を教えるなどしてフォローをしています。







他にも日本からも遠隔で独自に宿題を出し、それに回答・添削して学習機会を増やすなどできる限りの工夫はしていますが、やはり学習の質やモチベーション

維持に多くの課題を感じているというのが正直な現状です。もちろんこれらはチェイホームに限らず、全世界が共通して抱えている課題だとは思いますが、私たちもその例に漏れず、その課題に直面している現状です。



コロナウィルス流行による子供たちへの影響

実はこれを書いている藤岡は、2020年3月まではカンボジアに常駐しておりましたが、同月以降新型コロナウィルスの影響で日本に帰国しており、昨年度は子供たちと直接関われておりません。

今までの経験上、やはり職員からの聞き取りや電話越しの会話だけでは子供たちの現状（特に負の感情）を汲み取ることは非常に困難である為、正直今の子供たちの状態を正しく把握できているとは思いません。

ただ客観的に見て、コロナウィルス流行に対するチェイホームの影響は比較的恵まれています。

まずチェイホームがあるエリアはカンボジアでも地方に位置する為、周囲も含め感染のリスクは少なく、学校も閉鎖になった現状で、子供たちが感染する可能性は極めて低い、と思っています。

また学校が閉鎖になったことで生まれるストレスに関しても同様です。

チェイホームは2ヘクタールもの広い敷地を持っており、そこで家畜の世話や田畑の農作業などやるべき仕事がある為、自粛期間中に家の中でじっと待機を余儀なくされる日本の子供達に比べれば、影響は軽微と推測します。

そんな中で心配をしているのは、コロナウィルスの流行による経済的なダメージの影響です。

実際に昨年度チェイホームでは、2020年3月まで毎月お米や豚肉などの物資を支援をしてくださっていたカンボジアの支援団体からの寄付がコロナウィルスの影響で無期停止となってしまいました（これで定期的に支援しているのは弊団体のみになってしまいました）。

それに追い討ちをかけるように周辺国との物流が滞ることで食品なども含めた物資が軒並み値上がりし、ただでさえ苦しい家計がさらに圧迫されています。

これらの現状を鑑み、フォレストでも常備薬の買い溜め（流通がストップする恐れがあった為）に追加で支援をしたり、学習代の一部を食費に充当する許可を出したりするなど、慎重に優先順位を見極めながらできうる限りの支援は行ってきました。しかしそれでも、昨年度は子供達に行き渡る食事の量と質が明らかに落ちてしまったことは否めません。



もちろん世界中で病気や飢えに苦しむ子供たちも少なくない現状を鑑み、先に述べたとおりチェイホームの現状はおかげさまで比較的恵まれています。

しかし育ち盛り食べ盛りの子供たち、しかも娯楽が少ないカンボジアの地方で、毎日の食は私たち日本人が考えるより遥かに大きな楽しみの一つです。また毎日の食の充実は、親がいない子供たちにとって大切な安心材料でもあります。

長く続くコロナウィルス流行の影響で、毎日少しづつ感じる不満が蓄積され、ストレスになっているのではと心配しています。

各子供の一年の成長記録

●チン（Ms. Peab Chhing）/ 1999年3月生



2020年8月撮影

半スタッフ的にチェイホームで生活を続けるチン、昨年度は彼女の存在の大きさを改めて感じる一年となりました。学校が休校になり、子供たちがずっとチェイホームで生活を余儀なくされる中で、彼女の明るさとリーダーシップには大いに救われました。

また高校中退という過去を持ち、その経験から周囲の子供達に「高校だけは卒業しておきなさい」とアドバイスしていた彼女にとって、昨年度は実弟であるヒンが高校卒業できたことは彼女にとっても大きな喜びのようでした。

電話越しでも伝わる喜びと笑顔のチン。

ヒンの高校卒業は、彼女のアドバイスによる影響も少なくなかったはずです。その喜びと自信を胸に、彼女自身もさらに挑戦し、飛躍してくれることを期待しています。

●ソチータ（Ms.SokSocheata）/1999年9月生



2021年3月撮影

優しく小さな子供たちの面倒見も良いソチータ。

昨年度もたくさん家事や子供たちの面倒を見て活躍してくれたと聞いていますが、実は繊細でナイーブなところがあり、スタッフの大人たちにも弱みを見せるのも苦手なところがあります。しかも普段はプノンペンで生活する彼女は、地方のチェイホームの子供たちよりも更に厳しい規制の中で生活しており、外に出て友達などに相談したり、愚痴をはく機会が持てず、「密かにストレスを溜めているのでは？」と勝手に心配している子供の一人です。

そんな彼女も今年は高校卒業試験の年です。中学の卒業試験の時は私から見てもとても心配している様子が見て取れた彼女、自宅待機の時間を有効活用し、たくさん勉強して試験に備えて欲しいのと同時に、精神的にも成長した姿を見せてくれることを期待しています。

●ヒン（Mr.PeabLeheang）/ 2000年1月生



2020年8月撮影

昨年度は高校卒業試験の年だったヒン。コロナウィルスの影響で長く休校が続き、試験がどうなるものかと心配していましたが…

なんとカンボジア政府の方針により「今年度は全員（試験無しで）合格」という、なんともカンボジアらしいサプライズで合格を手にしました。

その報告してくれる電話の中で、「合格のお祝いにパーティ開いてください！」と言ってきた彼に対し「逆だよ、貴方が働いたお金でお姉さんたち（スタッフ）にお礼のパーティを開くんだよ」と冗談っぽくアドバイスしましたが、その真意は受け取ってくれたでしょうか？いずれにせよ無事に高校卒業が決まったヒンですが、今後は元々興味を持っていた自動車の技術を勉強すべく、専門学校への進学を予定しています。 <次ページへ続く>

しかしそれもコロナウィルスの影響でいつから始められるか、どこから通うかなど、まだ未定なようです。いずれにせよ、新しい環境で引き続き頑張ってくれることを期待しています。

●チョモラウン（Mr. SokChomreun）/ 2000年4月生



2020年5月撮影

ヒンと同じく、棚ぼたで高校卒業試験を合格したチョモラウン。

足に障害がある（後天的で原因不明）チョモラウンは、引き続き症状が思わしくなく、痛み止めを手放させない生活が続いています。

そのため一般的な就職は難しいと判断し、ヒンと同じく自動車関連の専門学校に行き、手に職をつけることを予定しています。

ちなみにヒンとチョモラウンの専門学校への進学に必要なお金は、チェイホームで大切に育ててきた牛の売却益と、私を含む数名からのカンパにてまかないました。

身体的にハンディキャップのある彼は、今後の人生でも誰かの助けを必要とするかもしれません。しかしそれと同等、もしくはそれ以上に誰かの役に立てる人に成長すべく、これからも頑張ってくれることを期待しています。

●ナロン（Mr. Sok Narong）/ 2002年3月生



写真左　2020年12月撮影

小さい時から障害を持ち、半身が上手く動かせないナロンは、滅多に電話口に来てくれない為、遠隔では中々状況を掴みにくい一人です。

ただ良くも悪くもマイペースな性格なので、今回のコロナの影響を一番受けにくいかも?と想像していましたが、聞いていると村の子供達をはじめとする周囲との喧嘩が（気のせいかもしれませんが）心なしか、微妙に増えているような気もします。

これがコロナウィルスの規制によるナロンを含めた周囲の子供たちのストレスの影響かどうかはわかりかねますが、いずれにせよカンボジアでは障害を持った人への支援や理解は先進国のようにはいきません。

今までの彼が自助努力で強い心を育んできたように、変わらず努力し続けること。そして周囲にも優しい気持ちで接してくれることを期待し応援しています。

●メタ（Mr. Sok Mata）/ 2002年6月生



2020年11月撮影

見た目にはすっかりお兄さんになってきたメタ。

今まで力仕事等を引っ張ってくれていた現長男のヒンが、今年度は専門学校等の外の世界に出ることになった今、次は彼が男性陣を率いるリーダーになるべきポジションになってきました。

男前な見た目とは裏腹に、子供っぽい性格のメタ。しかもメタの下の男性世代が少し年の離れた小さな子供達になる為、彼らを率いるのはきっと苦労もあると思います。とはいえ下の世代を育てなければ、結果として家畜の世話から畑仕事まで、メタの負担は計り知れません。

メタは今まで小さな子供たちと近い目線でよく遊んでくれているので、彼らからの人気は上々。 <次ページへ続く>

その人気を人望に変えるべく、小さな子供たちをうまくリードできるリーダーとして成長してくれることを期待しています。

●ソピット（Ms.SokSophit）/ 2003年12月生



2020年12月撮影

昨年度から晴れて高校生に進学したソピットですが、他の子供たち同様、コロナウィルスの影響でほとんど学校に行けていません。しかも普段プノンペンで過ごす彼女は、地方にあるチェイホームで過ごす子供たちより、更に厳しい規制の中での生活を余儀なくされています。

元々外に出て自然の中で過ごすのが好きな彼女ですから、ストレスを感じる一年だったと思います。

しかし、そんな中でも同じく学校に行けない小さな子供達にむけて率先して授業をしてくれるなど、日々頑張ってくれています。

元々勉強はそれほど好きでない彼女にとって、小さな子供に教えることでアウトプットする生活は、実は彼女の学力向上にも大いに役立っているのでは？と思いながら、応援しています。

●サムナン（Mr. SokSomnang）/ 2008年5月生



写真先頭　2020年12月撮影

恥ずかしがり屋で、年齢より大人びて見えるサムナン。同年代の子供より年上と過ごす時間が多く、昨年度も勉強やお手伝いにしっかりと活躍してくれました。

ただ他のプノンペン在住の子供たちと同じく、昨年度は規制によりお家時間が長くなり、身体を動かす時間が少なくなってしまいました。運動神経がよく、身体を動かすことも大好きなサムナンには、少し物足りない時間が続いていると思います。

ただテスト結果やノートの取り方などを見ても、勉強を頑張っている様子、そして彼の時頭の良さが伺えます。

お姉さんたちからはお医者さんになることを期待されているサムナン、このまま勉強も頑張りながら、そして運動も楽しんで欲しいですね。

●チャンブルティ(Mr. VongChanrithy)/2009年1月生



写真左　2021年1月撮影

この数年、英会話の上達がめざましいチュッピー（あだ名）ですが、他のプノンペン在住の子供たちと同様、お家時間が長くなり、昨年度は英語を使う頻度がめっきり減ってしまったようです。その為かオンラインで会話しても昨年まで感じていたような英語力の伸びは感じられず、少し成長率が鈍化しているようにも感じます。ただそれは、もしかして彼が精神的に大人になってきた証拠かもしれません。というのも以前の彼は多少空気を読まずどんどん会話に入ってくる（それが英語力を急激に伸ばした一因だと思います）ところがありましたが、昨年度はそのようなことはあまり感じませんでした。

思春期に入り、精神的に大人に近づきつつあるチュッピー、これからも彼の成長を見守りたいと思います。

●レサー（Mr. SokRaksa）/ 2009年7月生



2020年12月撮影

やんちゃでいつも元気なレサーには、毎年ハラハラさせられることがちょくちょくあるのですが…、昨年度はバイクとの接触事故を起こしてしまい、特に心配させられました。

幸い大事には至らず、治る怪我だけで済んで良かったのですが、これを気に、もう少し注意力を養ってもらえることを期待しています。

とはいえ、レサーの活発で元気でお調子者なところは彼の子供っぽい魅力でもありますし、その良さを失って欲しい訳ではありません。

子供にはつい多くを求めてしまいそうになりますが、大きな怪我はない程度に、これからも元気に過ごして欲しいです。

●レサット（Mr. SokRaksi）/ 2009年8月生



レサーと同じく、元気でやんちゃなレサット。甘えたが高じてついついやりすぎてしまうことがあること、そして時に感情のコントロールが難しいことを課題としていますが、これらは全て彼の愛情への飢えから来るものかもしれないと感じています。

そこで昨年度はお姉さん（スタッフ）たちにより意識して愛情を注いでもらうようお願いし、様子を見てまいりました。難しい課題だけに、昨年度中には劇的な変化は見て取れませんでしたが、彼が少し精神的に落ち着いてきていることを期待して見守っています。

そして引き続き、褒められると調子に乗る彼の特性を活かし、良い面をどんどん伸ばしてくれるよう、今年も見守りたいと思います。

●カニタ（Ms. SokKonitha）/ 2012年2月生

孤児院のお兄ちゃんお姉ちゃんだけでなく村にも友達の多い社交的なカニタ、学校の休校が続いても、そのおかげで元気に過ごしてくれています。

男の子勝りの活発さと負けず嫌いなところがあるカニタ、小さな喧嘩はしょっちゅうですが、同時に併せ持つ彼女の人懐っこさで友達との仲も良好なようです。時頭がよく、自宅学習の時間でもよく勉強をしているので、勉強面でも心配はありませんので、あとはもう少し成長を見守りながら、お手伝いにももう少し積極的になってくれることを期待しています。



2020年12月撮影

OVERSEAS

●サンアン（Mr. VongSothearith）/ 2014年7月生



写真右 2020年8月撮影

チェイホームの最年少のサンアンも、昨年の11月から小学校に入学しました。しかし他の子供たちの例に漏れず、昨年度はほとんど学校に行けていません。

サンアンに限らず、幼少期の多感な時期に同世代の子供たちと関わりが持ちづらいというのは、なんとも歯痒い思いが続いています。

特にサンアンは孤児院でも常に最年少として可愛がられ、甘やかされて過ごしてきました。そのせいか同世代の子供と比べても甘えが強い傾向があり、それを小学校で同世代と多く交わることで成長してくれることを期待していただけに、その思いは一入です。とはいえ精神的にも少しずつではありますが、成長してきているサンアン。プノンペンの各種制限はまだもうしばらく続きそうなの

孤児院を卒院後、支援を継続している子供

●コン（Mr.SokOuKhong）/ 2000年1月生



写真中段左 2020年5月撮影

本人の希望で高校卒業を待たずにチェイホームを卒院したコンは、引き続きプノンペンにあるタヤマ日本語学校（管理者のマナビーさんの母校でもあります）で、住み込みで毎日勉強を頑張っています。

ただお世話になっている日本語学校も休校が続いており、昨年度はほとんど授業が開催されていない状態のようです。

幸いなことにコンは学校で住み込みでお世話になっているので、日本語の教材や同じく日本語習得を目指す仲間たちに囲まれ、自助努力も含めしっかりと日本語習得に励んでいるようです。

昨年度の活動記録

●2020年5月







季節外れの大雨に喜びながら、水を有効活用する子供たち

OVERSEAS

●2020年9月





コロナ禍でも創業者のお母さまを始め、ご先祖様の供養はしっかりと！

●2020年10月





自然の恵み、チェイホームでとれたカエルや野菜でＢＢＱ！





またしても記録的な豪雨で建物の一部や田畑にダメージがありました。

●2020年12月





クリスマスに子供たちへぬいぐるみのサプライズプレゼント！

●2021年1月





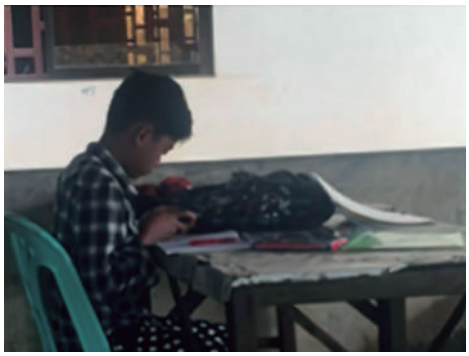
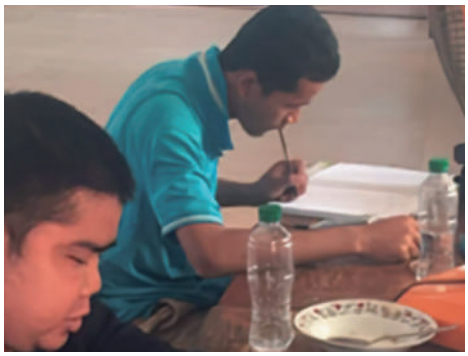
小さな子から女の子まで、みんなで力を合わせて田んぼ仕事！





無事に高校卒業が決まり、専門学校へ願書提出するヒンとチョモラウン

●2021年3月


通念を通し、自宅学習やリモート学習に励んだ子供たち

▶昨年度の振り返りと今年度の取り組み

みなさまご承知の通り、昨年度は色々な形でコロナウィルス感染拡大の影響に振り回される一年となりました。

既にお伝えした通り、学校は休校、他団体様の支援もストップし、流通の制限により物価は上昇と、マイナスの影響をあげればキリはありません。

しかしそんな中でも良い面を上げるとすると、今回の感染予防の意識の高まりに合わせ、改めて手洗い・うがいの大切さを周知し、子供たちの意識が向上したことです。

　またチェイホームに限らず、東南アジアでよく見られる特徴として、薬に関する知識不足から微熱程度でもすぐに、しかも大量の薬に頼る風習があるのですが（病院や薬局で処方される薬の量がそもそもいい加減）、これもこの機会に研修を重ね、少しずつではありますが改善の兆しが見えてきました。



　上記の2つはコロナウィルスが流行する前から気になっており、過去何度も指導してきたにもかかわらず中々改善できていなかった分野でしたが、今回の流行を期に健康への意識が高まったことで、改善につながりました。
　これらの衛生や健康に関する意識の高まりは、今回の流行が落ち着いた後も習慣として定着できるよう、今後もサポートして行きたいと思っています。

　また今回のコロナウィルス感染拡大による別の良い影響としては、やはり様々な絆や支援のありがたさを再確認できたことです。
　カンボジアの昨年度は海外からの渡航客は激減、またこの数ヶ月で急激に感染が拡大したことにより国内での移動も厳しく制限される中、昨年度はチェイホームへ訪れていただけるお客様はありませんでした。



　このような現状に当初は子供たちからも「寂しさ」にフォーカスした声が漏れ聞こえていましたが、現在の世界の状況を知る中で、最近では今まで来てくれていたお客様との楽しかった思い出や、感謝の声も改めて聞こえてくるようになりました。

　また同様に、学校へ行けないことで今まで学校が好きでなかった子供たちからも「早く学校に行きたい」という声が聞かれたりもしています。

　様々な行事も縮小し、今まで当然と思っていたことすら、当たり前でなかったこと、それに気づけた子供がいるのであれば、それも（望んで行った訳ではないですが）今回の大きな収穫になるのではないでしょうか。
　そのようなことを願いながらも、本年度も引き続き子供たちの成長を見守っていきたいと思います。

いつも応援ありがとうございます。

FOREST
Bless to you ...